

図書所蔵レコード件数1,000万件突破

平成5年4月27日(火)13時21分に目録所在情報サービスの図書の所蔵レコード件数が1,000万件を突破しました。昭和59年12月に東京工業大学附属図書館が目録システムに接続して運用を開始してから8年5ヶ月め、昭和60年7月に第1号の所蔵レコードが登録されてから7年9ヶ月めでの達成となります。前半の500万件は第一レコード登録後5年10ヶ月たった平成3年5月22日に達成されましたが、後半500万件は1年11ヶ月というハイペースで達成されました。1,000万件前後の入力状況は下表のとおりです。

このように早期に大量のレコードが登録されたのはひとえに、総合目録データベースの充実を目指して積極的に参加くださった各参加機関各位のご尽力の賜物です。この場を借りて改めてお礼申し上げますとともに、総合目録データベースのより一層の拡充にさらにご協力くださいますよう、あわせてお願い申し上げます。

カウント	入力時刻	所蔵ID	書誌ID	参加組織	入力館
9,999,991	13:20:46	CD0087168263	BN01945598	FA001244	北海道教育大学
9,999,992	13:20:48	CD0087168478	BN08830506	FA008174	桃山学院大学
9,999,993	13:20:53	CC0053586547	BA12488157	FA009224	国立民族学博物館
9,999,994	13:20:54	CD0087168489	BN08944061	FA004231	札幌大学
9,999,995	13:20:55	CD0087168387	BN08555627	FA007670	同志社大学
9,999,996	13:21:00	CD0087168208	BN04691871	FA014064	学習院女子短期大学
9,999,997	13:21:01	CC0053586514	BA19714425	FA007670	同志社大学
9,999,997	13:21:01	CC0053586569	BA01096585	FA002010	一橋大学
9,999,999	13:21:05	CD0087168230	BN08079735	FA007670	同志社大学
9,999,999	13:21:05	CD008716849X	BN00323195	FA003126	鳥取大学
10,000,001	13:21:16	CD008716865X	BN08607946	FA001379	東北大学
10,000,002	13:21:19	CD0087168638	BN08944221	FA007739	立命館大学
10,000,003	13:21:22	CD0087168514	BN06357098	FA006984	フェリス女学院大学
10,000,004	13:21:26	CD0087167894	BN08942791	FA002564	三重大学
10,000,005	13:21:29	CC0053586605	BA19714367	FA008913	福岡大学
10,000,006	13:21:37	CC0053586525	BA18519195	FA002837	京都工芸繊維大学
10,000,007	13:21:40	CD0087168649	BN08443576	FA006678	明治大学
10,000,008	13:21:44	CC0053586558	BA18702646	FA007433	南山大学
10,000,009	13:21:47	CD0087168682	BN01563106	FA004355	酪農学園大学
10,000,009	13:21:47	CC005358665X	BA01165600	FA004796	獨協大学

UNIX版UIP(XUIP)の提供について

センターニュース第21号(1992年9月30日発行)において開発計画等について紹介したUNIX版UIP(名称はXUIPとなりました)は、パイロット・モデルのテスト・評価と第1版の動作確認及び評価が終了し、いよいよ関連機関への提供の準備が整いました。平成5年5月26日に、センターにおいて図書館システム開発メーカー各社を対象としてXUIP提供説明会を開催し、概要説明と提供条件説明を行いました。そこで、XUIPの概要、提供にあたってのセンターの方針及び説明会出席メーカー名一覧について紹介します。今後において参加各機関がシステム・リプレースを検討する際の参考材料としていただければ幸いです。

1.XUIPの概要

今回開発したXUIPは、UNIXワークステーションのGUI(グラフィカル・ユーザー・インターフェース)上で稼働することが前提となっており、マルチウィンドウ・マルチタスクといったワークステーションの特徴を生かす機能が備わっている。主な機能は次のとおりである。

1. XUIPの画面構成

このXUIPではコマンドボタンサブウィンドウ、仮想画面サブウィンドウ、ローカルデータサブウィンドウの3種類のサブウィンドウを設けて利用上の便宜を図っている。各サブウィンドウは次のような機能を果たす。

ア コマンドボタンサブウィンドウ

これまでキーボードから入力していたコマンド(あるいはコマンド群)をマウスで指定できるようになっている。

イ 仮想画面サブウィンドウ

従来センター側から送信されていた仮想画面を表示する。仮想画面上ではボタン機能(後述)を利用してフィールド編集ができるようになっている。

ウ ローカルデータサブウィンドウ

書誌・所蔵各々の仮想画面に対して、ローカル側で必要なデータを入力するエリアを表示できる。

2. ボタン機能の設定

ボタンは頻繁に使用する目録システムのコマンド、ローカルシステムのコマンド及びその両者を繋げたものを予め埋め込んで、マウスで簡便に操作できる

ようにしたものである。ボタンにはXUIPが標準で用意するものとユーザーが自由に設定できるようになっているものがある。

3. 仮想画面のスナップショット

XUIPではワークステーションのマルチウィンドウ環境を生かして、目録作業において必要な画面を一時的に別ウィンドウに保存・表示した状態で、次の画面に進むことができるようになっている。これによって二つ以上の画面を対比させながら目録作業を行うことができるようになる。

4. ダウンロード機能の装備

任意の時点で表示されている仮想画面サブウィンドウ及びローカルデータサブウィンドウのデータを各画面情報とともに予め指定されたファイルに出力することができる。このデータを利用すればローカルシステム側での書誌・所蔵データの加工作業が比較的容易になることが予想される。

5. ローカルデータ入力エリアの設定

各ユーザーはローカルデータサブウィンドウにおいて、各々の図書館のローカルシステムに対応するデータ入力エリアを自由に設定することができる。

XUIPは当初から、代表的なGUIである「OPEN LOOK(X-View)」と「Motif」の2種類に対応する方針で開発を行っており、これによってほぼ全てのメーカーの取り扱うワークステーションに、大幅な改造なく対応できると期待している。

2. 提供について

このXUIPの提供先は、各図書館システム開発メーカーとする。その理由は次の諸点にある。

1. UIPそのものが図書館システム全体の中に組み込まれて利用される性質のものであり、まず図書館システムの開発・保守等を担う図書館システム開発メーカーに提供することが最も適当であると判断したこと。
2. 図書館に直接XUIPを提供した場合、個々の図書館に対する導入及び保守にあたって当センターでのサポート態勢がとれないこと。

XUIPの提供にあたっては、各メーカーにXUIPの基本設計書及びソースコードを提供することを予定している。提供にあたってはセンターとメーカーとの間でXUIP使用契約を締結する。各メーカーはXUIPを実際に提供する際に価格を各自の判断で設定することとなる。センターは各メーカーが定めた価格の一定率をXUIPの著作権使用料に相当する対価として徴収する予定である。各メーカーから各参加機関にXUIPが提供される場合には無償とはならないが、XUIPの開発をセンターが行ったことの意義を各メーカーが理解され、低価格に設定されるものと期待している。なお、参加図書館があくまでも自己の責任において導入から保守までを全面的に実

行するのであれば、特例として直接図書館へXUIP等を提供する。ただし、この場合センターは援助を一切行わない。

XUIP提供説明会について

センターでは平成5年5月26日(水)14:00からXUIP提供説明会を実施した。今回の説明会の開催にあたっては、これまで図書館関連システムを開発・提供してきた実績のあるメーカー各社及びワークステーション提供各社に出席を呼びかけ、27社67名の出席を得た。(出席各社の一覧は次頁の表のとおりである)

このことにより、今後各メーカーはセンターとXUIP使用契約を締結し、各々の環境のもとでの動作確認及びローカルシステムへの移植等、提供のための準備を開始することになる。

なお説明会の中で、今後のXUIPの運用上の諸問題を検討するために、センターと各メーカーとで連絡協議会(仮称)を設置することとなった。

XUIP提供説明会出席メーカー一覧 (五十音順)

アイビーエム公共ソリューション 株式会社

株式会社 伊藤伊

伊藤忠テクノサイエンス 株式会社

沖電気工業 株式会社

オムロン・データゼネラル 株式会社

株式会社 紀伊國屋書店

キハラ 株式会社

株式会社 CRC総合研究所 西日本支社

株式会社 ソアクリスタル

ソニー 株式会社

デジタル・リンクス 株式会社

東海ソフト 株式会社 東京支店

ナウカ 株式会社

日本エヌ・シー・アール 株式会社

日本サンマイクロシステムズ 株式会社

日本デジタルイクイップメント 株式会社

日本電気 株式会社

日本電子計算 株式会社

日本ユニシス 株式会社

株式会社 日立製作所

株式会社 PFU

有限会社 フェイス

富士通 株式会社

株式会社 ブレインテック

丸善 株式会社

株式会社 マルチメディア研究所

株式会社 リコー

学術情報センターへの問い合わせについて

センター所蔵の資料に関する質問は	情報・資料係	03(3942)6937 FAX 03(3942)6797
その他の質問は	目録情報課	03(3942)6983～6 FAX 03(3944)7131

までお願いします。

学術雑誌総合目録欧文編全国調査の中間報告

学術雑誌総合目録和文編確認調査が平成4年11月1日から平成5年4月30日までを調査期間に行われました。現在各参加機関から提出された所蔵更新用リストおよびデータシートの点検整理が終了し、順次、データ入力を行っています。また、所蔵更新用リストおよび所蔵追加用データシートでご回答いただいた所蔵データの修正、追加、削除は外注パンチとなります。この外注パンチ分の所蔵データは10月末までにはデータベースに反映させる予定です。

この調査に御協力いただいた各参加館にあらためてお礼申し上げます。

6月10日現在のデータの提出状況は以下のとおりです。

1.データ提出方法

書誌データ	オンライン入力	161	機関	(346 参加組織)
	CD-ROMシステム	76	機関	(84 参加組織)
	データシート	441	機関	(609 参加組織)
所蔵データ	オンライン入力	131	機関	(219 参加組織)
	CD-ROMシステム	78	機関	(86 参加組織)
	所蔵更新用リスト	421	機関	(585 参加組織)
	磁気テープ	48	機関	(149 参加組織)

2.オンライン入力状況

		'92.11	'92.12	'93.01	'93.02	'93.03	'93.04	合計
書誌	新規	491	455	451	848	1,163	906	4,314
	修正	2,075	3,538	4,708	8,702	6,360	7,555	32,938
所蔵	新規	2,521	4,587	5,834	15,366	12,602	16,437	57,347
	修正	10,883	17,212	15,109	30,590	29,079	28,360	131,233
	削除	712	1,178	1,576	2,135	2,692	4,437	12,730

※修正件数の合計は修正回数の延べ件数であり、純レコード件数ではない。

3.データシート参加館による提出リストおよびデータシート数

機関の種類		更新LIST	書誌追加	所蔵追加	書誌修正	変遷報告
大	国立	28部	314枚	340枚	146枚	136枚
	公立	27	133	402	25	29

学	私 立	279	3,676	3,393	855	791
(小 計)		334	4,123	4,135	1,026	956
各省庁所轄 研究機関等		113	1,075	622	320	268
合 計		447	5,198	4,757	1,356	1,224

全国調査は4月30日までが調査期間でしたが、今後もオンラインでの新規入力・修正作業は続けていただいても差支えありません。書誌データの作成・修正の際には今までと同様に、情報源コピーを添えた、入力日付入り「画面ハードコピー」と「変遷注記用データシート」を引続き送付して下さるようお願いいたします。

また、所蔵データの修正に関しては次の点に注意してください。

ア 磁気テープで提出した所蔵データ

センター側での磁気テープロード終了の通知があるまで所蔵データの修正もしくは削除は行わないでください。

イ 所蔵更新用リストで提出した所蔵データ

センター側での作業終了までHLYR,HLV,CONTフィールドの修正を行わないでください。ただしCLN,CPYNT,LDF,LTRに限ってはセンター側では更新しませんので修正ができます。

また所蔵データを削除しないように注意してください。

ウ 所蔵追加用データシートで提出した所蔵データ

センター側で新たに所蔵レコードを作成しますので、参加組織側での修正はセンター側の作業終了以降に行ってください。

1992年7月31日までに作成された洋雑誌の重複レコードを発見した場合には、「削除予定レコード」処理をせずに、センターまで画面のハードコピーを添えて報告して下さい。また、1992年7月31日までに作成された書誌レコードで自館の所蔵レコードを削除した結果、所蔵のリンクがなくなったものについては、特にご報告いただく必要はありません。

磁気テープでご報告いただいた所蔵レコードのデータロードは7月30日までにロードを終わらせる予定で順次行っております。各参加館にはロード終了後、個別に通知いたします。

参照MARC流用時の注意について

現在、NACSIS-CATでは書誌レコード作成を支援するため参照MARCを用意しております。

参照MARCは、MARCレコードをセンターの仕様に合わせるため、フォーマット変換を行っていますが、MARC作成機関の使用する規則の相違等により、必ずしもセンターの基準・規則に合致しているわけではありません。

そこで、流用入力時にはセンターの基準・規則に合わせる必要があります。

これを怠ると重複書誌を作成してしまったり、書誌の修正を頻繁に行う必要が出てきたりします。データベースの品質を維持するためにも、流用入力時には必要な修正を行うようにしてください。

そこで今号より、参照MARC流用時の注意事項について、解説を行うことにします。

今回はJAPAN/MARCについてです。

なお解説中のタグについて詳しくは、「JAPAN/MARCマニュアル 図書編 第1版」を参照してください。

和図書書誌レコード・JAPAN/MARC編

- 1) 巻次・部編名にあたる語句が標題としてTR中に記載されていることがある
- 2) 逆に固有の標題として記録されるべきタイトルがVOLに記載されていることがある

解説

- 1)・2)について。

JAPAN/MARCでは、本書名はタグ25Xのフィールドに、叢書名はタグ280に、多巻ものの各巻書名はタグ29Xに記載されています。

本書名のみの場合には、タグ25X中のデータがTRフィールドに記述されることとなりますが、タグ29Xにデータが存在する場合には、このタグ29Xの方がTR中に記述されることとなります。

また、タグ25X,29X,280の全てが存在する場合、タグ25Xのデータは中位の書誌の扱いとなり、PTBLフィールドに記述されます。

しかし、多巻ものの各巻書名はセンターの基準では、固有の標題となる場合もあれば、部編名の扱いとなる場合もあります。これは自動的に振り分けることが出来ませんから、結果的に上記のように基準等とは異なるレコードが発生することになるのです。

対応

このような参照レコードにヒットした場合には、センターの基準に従い、TRに記述されるべきものか、VOLに記述されるべきものかを判断し、必要ならば書誌階層も含めて修正を行うようにします。

3) 巻次ごとに別書誌が作成されていることがある

解説

JAPAN/MARCでは基本的にレコードは各巻単位で作成されるため、このような状況が発生することになります。

対応

このような参照レコードにヒットした場合、まず本当にNCファイル中に該当するレコードがないか慎重に再検索することが大切です。またもしNCにあれば、必ずそのデータを修正して、VOLの繰り返しで1つの書誌にまとめなくてはなりません。

4) 標題関連情報のよみがないことがある

解説

JAPAN/MARCでは基本的に標題関連情報にはよみを付与していないためです。

対応

NCに流用入力時、出来るだけ標題関連情報にもよみを付与するようにしてください。

5) TRに入っているタイトルにもよみがないことがある

解説

JAPAN/MARCで叢書名がある場合(タグ280が存在する場合)、タグ25Xのデータを本書名とした(子)書誌用の参照レコードの他に、タグ280のデータを本書名とした(親)書誌用のレコードも作成されます。しかし、JAPAN/MARCでは、叢書名の全てによみが付与されている訳ではありません。場合によってはよみが付与されていないこともあります。従って上記のようなことが発生します。

対応

NCに流用入力時、よみを付与するようにします。

6) よみ・分かち書きがセンターの規則と異なることがある

解説

国会図書館独自の基準があり、センターの基準とは異なる部分が多いためです(なお、国会図書館での分かち書きについて、「全国書誌通信」のNo.83に解説があります)。

対応

センター側の基準に書き替えます。ただし、ゆれが出てくるのは止むを得ない点もありますから、場合によってはVTフィールドを使用して、検索の利便性を考慮するようにしてください。

7) 英数字にはかなよみがふられていることがある

解説

JAPAN/MARCでは英数字とかな・漢字が混在している場合には、英数字は、その表記形に対応するかなよみが付与されています。ただし、1968年以前のデータについては、よみを付与せずに、英数字がそのまま入っています。

対応

センターでは英数字は表記のままの形をよみとしているので、センターの規則に合うように修正します。また、かなよみについても、VTフィールドに記述して、検索の利便性を図ることも大切です。

8) 書誌記述で使用されている漢字が、新字体に変更されている

解説

JAPAN/MARCでは漢字については、JIS漢字コード体系の中に収まるように漢字の置き換えを行っているためです。ですから、新旧に限らず、俗字や別字についても置き換えが可能なものについては、JIS漢字コード体系内の漢字に置き換えています(漢字字種の採用基準については、前述の「JAPAN/MARCマニュアル 図書編」の p.78-82を参照してください)。

また、JIS漢字コード体系内の漢字に置き換えが出来ないような漢字(外字)については、二に置き換えられています。

対応

センターの基準では、原則として転記の原則に従い、資料の情報源にあるがままの表記形を転記することになっていますので、必要ならば修正してください。また検索の利便性を考慮してVTフィールドに新字体等での表記形を記載するようにします。

更に、二に置き換えられているものは、センターの規則に従い、
◆D○○○◆等に置き換えるようにしてください。

9) 翻訳書でもORGLには原書の言語コードが記載されていない

解説

この部分については、変換時に置き換えを行っていないためです。

対応

原書の言語が判明する場合には、ORGLに原書の言語コードを入れるようにしてください。

また、ついでながらREPROについても、常にフィールドは空欄になっていますから、必要ならば必ずデータを入れるようにしてください。

10) AL中の団体名の下部組織名がないことがある。また、「主標目.副標目形」となっているときがある

解説

国会図書館では著者名典拠中の団体名についてその標目形をかなり上位のレベルで管理しています。従って、資料中に記載があってもその通りになっていな

いことがあります(団体名著者標目の選択基準については、「全国書誌通信」の No.80に掲載されています)。

また、85年以前のレコードについては、「主標目.副標目形」を採用していたため、現在の形とは異っています。

対応

センターの基準等に従った形に修正します。

11) 特殊な版表示がNOTEに記述されている

解説

JAPAN/MARCでは特殊な版表示は基本的には全て注記扱いです。従って変換時、特殊な版表示は全てNOTEに記述されることになります。

対応

装丁に関わる特殊な版表示はVOLに、それ以外の特殊な版表示はEDフィールドに書き替えます。

12) 発売者、製作者等がNOTEに記されている

解説

JAPAN/MARCでは2番目以降の出版者や、発売者が出版者と異なる等のような場合には、それらの情報は注記のフィールド(タグ350)に記述されます。

従って、このような記述は全てNOTEフィールドに記述されることになります。

対応

発売者、製作者等は、出来ればPUBを繰り返して記載するようにしてください。

13) 内容著作がNOTEに記されていることがある

解説

JAPAN/MARCでは内容著作は基本的には注記扱いです。また、1フィールド中に一括して記述されています。

ただし、場合によっては、多巻ものの各巻書名が一括して内容注記と同等の扱いでNOTEに入っていることがあります。

特に極めて多数の著作が含まれている場合には、冒頭のもの1つのみを挙げ、他は「その他〇〇編」としていることがあります。

対応

内容著作については、可能な限りCWフィールドに記述し直すようにしてください。

出版国コードの一部改定について

USMARC Code List for Countries 掲載の国名コードの変更に伴い、コーディング・マニュアル付録1.2〔出版国コード表〕を一部改定しました。

新コードによる運用は5月28日から行っています。

変更したコードは以下のとおりです。

1) 新規に追加されたコード

1. 旧ユーゴスラビア連邦の解体に伴う各国の国名コード
2. 旧チェコスロバキアの解体に伴う各国の国名コード

2) 不使用となったコード

チェコスロバキア cs

ただし、旧ユーゴスラビアの国名コード「yu」は、引き続き「セルビア・モンテネグロ」の国名コードとして使用しますので御注意ください。

詳しくは、本号付録「コーディング・マニュアル」を参照してください。

なお、新コードの運用開始に合わせ、データチェック・プログラムを変更しました。不使用となったコードが記入されていると、SAVE / REGISTER コマンド発行時にエラーメッセージが表示されます。書誌レコードを流用入力、修正するときには改定後のコード表に従ってデータ記入を行うようにしてください。

目録システム利用マニュアル登録編(第3版)の刊行

目録システム利用マニュアル登録編の第3版を本年3月末に刊行しました。

旧版(平成元年3月)発行以降に行われたシステム改訂に伴う検索・登録手順の変更、及び、それに伴う登録事例集の内容の刷新、また各レコードのフィールド別データ入力領域表の拡充などが主な改訂箇所です。

検索編、データベース編と併せてご利用ください。

平成5年度研修事業の概要

講習会等の種類	目的	受講対象者	会場	回次等	期間	定員
総合目録データベース実務研修会	目録所在情報サービスを利用している図書館等において、目録担当者への指導、目録システム講習会の講師を行う高度な知識と技術を有する指導的人材の養成	目録所在情報サービスを利用している図書館等職員のうち目録システム講習会を修了し、かつ目録業務について十分な知識と経験を有する者	学術情報センター	1	5. 9. 27(月)～10. 22 (金)	12名
				2	5. 11. 8(月)～12. 3 (金)	12名
目録システム講習会	目録システムの運用に関する知識・技術の習得	目録システム接続及び接続予定機関の目録システム業務担当職員	学術情報センター	1	5. 5. 24(月)～ 5. 28 (金)	終了
				2	5. 6. 21(月)～ 6. 25 (金)	受付終了
				3	5. 7. 19(月)～ 7. 23 (金)	受付終了
				4	5. 8. 23(月)～ 8. 27 (金)	28名
				5	5. 10. 18(月)～10. 22 (金)	28名
				6	5. 11. 29(月)～12. 3 (金)	28名
				7	5. 1. 24(月)～ 1. 28 (金)	28名
目録システム講習会 (地域講習会)	目録システムの運用に関する知識・技術の習得 〔目録システム講習会の受講機会を拡大を図るため、各図書館等と共催で開催〕	目録システム接続及び接続予定機関の目録システム業務担当職員	筑波大学		5. 5. 24(月)～ 5. 28 (金)	終了
			熊本大学		5. 5. 31(月)～ 6. 4 (金)	終了
			九州大学	1	5. 6. 14(月)～ 6. 18 (金)	終了
				2	5. 6. 21(月)～ 6. 25 (金)	受付終了
			金沢大学		5. 6. 28(月)～ 7. 2 (金)	受付終了
			横浜国立大学	1	5. 6. 28(月)～ 7. 2 (金)	受付終了
				2	5. 7. 6(火)～ 7. 9 (金)	受付終了
			東北大学		5. 7. 5(月)～ 7. 9 (金)	受付終了
			富山大学 富山医科薬科大学		5. 7. 12(月)～ 7. 16 (金)	受付終了
			名古屋大学		5. 7. 19(月)～ 7. 23 (金)	受付終了
			徳島大学	1	5. 7. 28(月)～ 7. 30 (金)	受付終了
				2	5. 8. 3(火)～ 8. 6 (金)	受付終了
			愛媛大学		5. 8. 2(月)～ 8. 6 (金)	7名
			岡山大学		5. 8. 2(月)～ 8. 6 (金)	10名
			一橋大学		5. 8. 16(月)～ 8. 20 (金)	10名
			大阪大学		5. 8. 16(月)～ 8. 20 (金)	8名
			北海道大学		5. 9. 6(月)～ 9. 10 (金)	12名
			東京大学	1	5. 9. 27(月)～10. 1 (金)	10名
				2	5. 10. 5(火)～10. 8 (金)	10名
			広島大学		5. 9. 27(月)～10. 1 (金)	20名
京都大学		5. 10. 4(月)～10. 10 (金)	10名			
神戸大学	1	5. 10. 4(月)～10. 8 (金)	9名			
	2	5. 10. 12(火)～10. 15 (金)	9名			
鹿児島大学		5. 11. 15(月)～11. 19 (金)	10名			
ILLシステム講習会	ILLシステムの運用に関する知識・技術の習得	ILLシステム業務担当の図書館等職員	学術情報センター	1	5. 6. 1(火)～ 6. 2 (水)	終了
				2	5. 7. 8(木)～ 7. 9 (金)	受付終了
				3	5. 9. 20(月)～ 9. 21 (火)	28名
				4	5. 10. 26(火)～10. 27 (水)	28名
				5	5. 12. 7(火)～12. 8 (水)	28名
NACSIS-IR講習会 (基礎コースI)	情報検索に関する基礎的な知識・技術の習得	図書館等において代行検索を行う者のうち情報検索について初心者もしくは1年未満の者	学術情報センター	1	5. 6. 15(火)	終了
				2	5. 6. 16(水)	終了
				3	5. 11. 1(月)	28名

				4	5. 11. 2(火)	28名
				5	5. 12. 14(火)	28名
NACSIS-IR 講習会 (基礎コースII)	情報検索に関する基礎 的な知識・技術の習得	図書館等において代行 検索を行う者のうち基 礎コースI修了者または 同等の情報検索経験が 1年以上3年未満の者	学術情報センター	1	5. 9. 2(木)～ 9. 3(金)	28名
				2	6. 1. 12(水)～ 1. 13(木)	28名
NACSIS-IR 講習会 (地域講習会)	情報検索に関する 知識・技術の習得 〔NACSIS-IR講習会の 受講機会の拡大を図る ため、各図書館等と共 催で開催〕	図書館等において代行 検索を行う業務担当職 員およびNACSIS-IRの 利用者	筑波大学		5. 7. 1(木)～ 7. 2(金)	受付終了
			北海道大学		5. 7. 7(水)～ 7. 8(木)	受付終了
			徳島大学		5. 7. 21(水)～ 7. 22(木)	受付終了
			東北大学		5. 7. 27(火)～ 7. 28(水)	20名
			立命館大学		5. 8. 3(火)～ 8. 4(水)	15名
			名古屋大学		5. 8. 5(木)～ 8. 6(金)	25名
			信州大学		5. 8. 24(火)～ 8. 25(水)	30名
			京都大学		5. 9. 7(火)～ 9. 8(水)	10名
			東京学芸大学		5. 9. 28(火)～ 9. 29(水)	14名
			大阪大学		5. 10. 7(木)～10. 8(金)	19名
			金沢大学		5. 10. 19(火)～10. 20(水)	16名
			東京大学		6. 3. 8(火)～ 3. 9(水)	20名
電子メールシステム 講習会	電子メールシステムに 関する基本的な知識・ 技術の習得	NACSIS-MAILの利用者	学術情報センター	1	5. 6. 10(木)～ 6. 11(金)	受付終了
				2	5. 8. 2(月)～ 8. 3(火)	28名
情報ネットワーク担 当職員研修 (文部省共催)	情報ネットワークに関 する高度な知識・技術 の習得	大学等におけるネット ワーク管理運用に携わ る技術担当職員	学術情報センター	1	5. 7. 12(月)～ 7. 15(木)	受付終了
				2	5. 9. 7(火)～ 9. 10(金)	受付終了